

YANAGISAWA



ブリマ・ヤナギサワ サクソフォーン
WO
SERIES
SOPRANO

宮崎 隆睦
が
選んだ理由



[製品画像提供] 発売元: 株式会社ブリマ楽器

2014年にアルト、そして2015年にはテナーをリリースし、その完成度の高さから瞬く間に人気に火がついたヤナギサワWOシリーズ。そのDNAを受け継ぐソプラノサクソフォンが9月21日に発売された。開発にも携わり、ヤナギサワサクソフォンの魅力を音で伝えている宮崎隆睦氏にWOソプラノの魅力を訊いた。

WOソプラノについて

WOソプラノは時間をかけて開発しました。大きな特徴としては先代モデルと比べてネックの形状変更を行ない全体的な鳴りが大きく変わっています。

今回自分の使う楽器を選ぶ時、何本か吹かせてもらいましたが、クオリティはほぼ均一で職人の技術の高さを感じました。昔から、作っている楽器に良い手をかけなくては命が宿らないと言われていますけど、ヤナギサワはそんな精神でモノづくりを行なっているのだと改めて感じましたね。

WOソプラノを選ぶ際、これまで使ったことのないデタッチャブルタイプ(ツーピース)を吹いてみたいと思ったんです。実は、先代モデルではワンピースの9030を使っていました。僕の中でのソプラノはワンピースの純朴な音という印象が強かったです。ツーピースだとパートが増える分、重厚なサウンドで抵抗感も増すイメージでした。ただ、ワンピースでも吹き込んでいくと、管体にテープがついている分、下(低音)のほうの抵抗

がしんどいなと思うことがあるのですが、WOソプラノは高音から低音まで吹いた息がしっかりと音になってくれます。ラクに吹けるので今まで感じたことのないような不思議な感覚でした。適度な抵抗感プラス心地よい弾力もあり、吹いていてキツいと感じることはありません。また、WOソプラノは上の音の音程がさらに安定し、ツボにしっかりとハマる感じでとても吹きやすくなりました。サックスの音程は吹き方などによって変えられますが、誰もが高音に関しては不安を持ちたくないと思うんです。ソプラノでは替え指で高い音を出すよりも、元々楽器が持っている音程感で正しい音程が出せるのであれば、そっちのほうがいいと考えていて、WOソプラノでは実現できています。



S-WO37PGP
管体:シルヴァー製
(ピンクゴールドメッキ仕上)



S-WO37
管体:シルヴァー製



S-WO20
管体:ブロンズプラス製



S-WO10
管体:プラス製



S-WO3
管体:シルヴァー製



S-WO2
管体:ブロンズプラス製



S-WO1
管体:プラス製

デタッチャブルタイプ/ヘヴィータイプ

ストレートタイプ/ライトタイプ

シルヴァー+ピンクゴールドメッキ仕上

他の仕上は開発の段階で試奏していましたが、この日ピンクゴールドを初めて吹きました。

ピンクゴールドは金メッキと違って音色に粘りがあるように感じます。自分の使用している楽器の地金はシルバーのほかブロンズも持っていますが、いずれも表面はピンクゴールドにしてもらっています。やっぱり地金はシルバーが一番ですね。そもそもヤナギサワを使い始めたきっかけはシルバーソニックがあったからです。最初にヤナギサワを吹いたのがバークリー音楽大学へ勉強しに行っている時です。学校に楽器メーカーの商品が展示されたことが

あって、たまたまその日はサックスでした。そのころはヴィンテージの楽器を使っていましたが、当時発売間もないシルバーソニックを吹いたら「現行の楽器の中にもこんなに素晴らしい楽器があるんだな」と思ったんです。そして日本に帰ってT-SQUAREに入れていただしたことになり、これから新しい音楽をやるのでヴィンテージじゃない新しい楽器がいいんじゃないかと考え、当時の現場マネージャーを通じてヤナギサワを紹介してもらって使い始めました。サックスは使い込んでいくとタンポが膨らむなどバランスが一度崩れて、それを修正してさらに使っていくと徐々



に落ち着いてきます。シルバーの楽器に関してはプラスに比べるとさらに長い時間をかけて様子が変わるんです。僕は9937のアルトを1999年から使っていますが、10年経過してもまだ様子が変化します。WOソプラノがどのように変わるか楽しみです。

実際に使ってみて

1ヶ月間という短い期間では違いがほとんど出ません。僕自身はデタッチャブルタイプのソプラノを吹くことが今までなかったので、音程感をすり合わせていく1ヶ月と考えていました。そ

の感覚がしつくりくるまでにはそのくらい時間がかかるかなと思っていたが、最初からほぼ違和感なく吹けました。息の抜けがいい楽器はコントロールが難しいんですけど、WOソプラノは比較的ラクで即戦力としてどんどん使っていけると思います。

トーンホールの進化



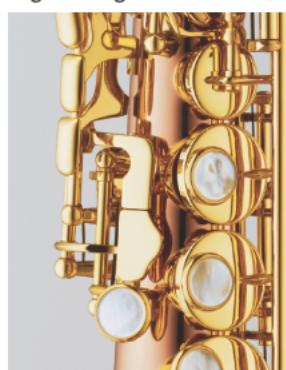
トーンホールの位置や大きさは理想的な音程と音色を実現させるために、何度も試奏を繰り返して検討された

左手サイドキーの進化

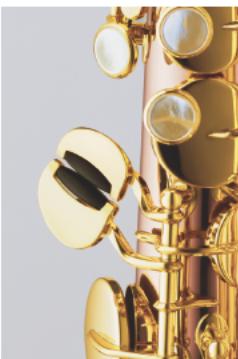


高音域のスムーズなフレージングの力となる左手サイドキー。その角度を変更することで操作性を向上させた

High G, High F♯キーの進化

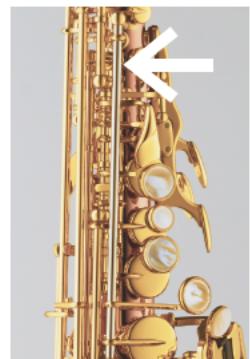


デタッチャブルネックタイプのみ、よりスムーズなキータッチを実現させるためHigh GとHigh F♯キーの向きや形状を変更



右手小指キーの進化

小さな手の人でも扱いやすいように、従来の右手小指キーをさらに手前に配置



センター棒の進化

真鍮から洋白に変更して剛性をアップ。これにより調整のズレを減少させ耐久性も向上させている



8月18日、本厚木Cabinにて行なわれた「大槻“KALTA”英宣(Ds) / 松本圭司(Pf) / 宮崎隆睦(Sax) / 岡田治郎(Bass)」のライブ。この日は、イエロージャケツ『Spirit of the west』、ジャック・シュワルツ=バルト『Dio Pann』などでWOソプラノを使用した

【デタッチャブルタイプ/ヘヴィータイプ】 新型ネック(カーブドタイプ、ストレートタイプ共に) [共通仕様]

基音=B♭、High Gキー付、彫刻入、マウスピース YANY:SC120付、ケース付、吹込管:2本付(各管体同素材製)

【価格】

S-WO10	¥425,000(税別)
S-WO10GP	¥825,000(税別)
S-WO20	¥510,000(税別)
S-WO20GP	¥910,000(税別)
S-WO20PGP	¥910,000(税別)
S-WO37	¥870,000(税別)
S-WO37GP	¥1,270,000(税別)
S-WO37PGP	¥1,270,000(税別)

【ストレートタイプ/ライトタイプ】

[共通仕様]

基音=B♭、High F♯キー付、彫刻入、マウスピース YANY:SC120付、ケース付

【価格】

S-WO1	¥278,000(税別)
S-WO2	¥373,000(税別)
S-WO3	¥650,000(税別)
S-WO3GP	¥1,050,000(税別)
S-WO3PGP	¥1,050,000(税別)